

授業概要

西洋社会が現出した「近代」・「現代」は、さまざまな問題を孕みながら、いまだその次の時代への展望を得ないまま、私たちの生活や思考まで支配している。本講義は、この「近現代」について歴史学が取り組んできた7つのトピックを取り上げ、その時々の研究者たちの激しい論争から得られたものを学習し、自分たちの世界史における立ち位置について深く考察することを目標とする。

授業計画

第1回	授業概要 受講心得
第2回	ヨーロッパの近代①：「ルネッサンス」 a:ブルクハルトの古典学説
第3回	ヨーロッパの近代②：「ルネッサンス」 b:「連続説」とホイジンガ
第4回	ヨーロッパの近代③：「宗教改革」 a:リッCHEル学派の古典的見解
第5回	ヨーロッパの近代④：「宗教改革」 b:トレルチによる古典学説批判
第6回	ヨーロッパの近代⑤：「大航海時代」 a:「価格革命」とハミルトンの古典学説
第7回	ヨーロッパの近代⑥：「大航海時代」 b:「価格革命」解釈の変化
第8回	ヨーロッパの近代⑦：「思想」の近代 a:科学革命
第9回	ヨーロッパの近代⑧：「思想」の近代 b:啓蒙思想と「自由」
第10回	ヨーロッパの近代⑨：「産業革命」 a:トインビの古典学説とクラパムの修正説
第11回	ヨーロッパの近代⑩：「産業革命」 b:「生活水準論争」
第12回	西洋の現代①：「帝国主義」の時代:巨大企業・市場独占、「経営者革命」、多国籍企業
第13回	西洋の現代②：「全体主義」の時代: 国家による経済世界の統御
第14回	西洋の現代③：「思想」の現代 a: 思想としてのファシズム・ナチズムそしてレイシズム
第15回	西洋の現代④：「思想」の現代 b:「構造主義」と「関係性」重視の時代 講義総括
第16回	筆記試験実施 論述式

到達目標

「近代」や「現代」の何が問題とされてきたかを理解し、それらが私たちの今の生活を考える上でどのような意味を持っているのかを、自分の意見として提示できること。またその前提として、西洋近現代史の歴史の主な流れと出来事について、十分な知識を蓄積すること。

履修上の注意

高校「世界史」の知識を前提として講義を進めるので、あらかじめ知識のブラッシュアップに努めておくこと。また「西洋史学入門」や「西洋史概説」をあわせて受講することを推奨する。理解の深化を目的にレポートの作成を求められる。また知識の定着度を測るため小テストを計5回実施するので、もれなく受験すること。

予習・復習

毎回講義時間の最後に、次回授業内容のキーワードを提示するので、それらについてよく下調べしておくこと。疑問点や不明な点があれば、授業内に質問コーナーを設けるので、ぜひ質問し解決を図ること。授業後知識の整理と習得のため、必ずノートをよく整理し内容の拡充に努めること。

評価方法

定期試験成績・小テストの成績・レポート成績を総合して評価する。配分割合は、定期試験60%、小テスト・レポートとも20%とする。

テキスト

特に用いない。参考文献については、必要に応じて授業内に随時紹介する。